

平成 30 年度 第 2 回 SD 研修会報告 (FD・SD 合同)

内 容	全学FD・SD合同研修会 (授業改善に向けて、アセスメントポリシーと成績評価、中長期計画策定に向けて)
日 時	平成30年 9月14日 (金) 14:40~16:10
場 所	宮崎国際大学 1-201 教室
進 行	SD担当 佐土原敦
出席者	Faculty 25 人、Staff 13 人、学生代表 4 人 (別紙参加者名簿)
議 事 内 容	
<p>学長あいさつ</p> <p>第 1 部「授業改善に向けて ~前期授業評価アンケート結果の分析と検討~」 山下学長 第 2 部「アセスメントポリシーと成績評価」 福田学務部長 第 3 部「中長期計画策定に向けて ~MICのビジョンを語る~」</p> <p>学長が、9月卒業10月入学者数、私立大学等改革総合支援事業の申請に向けて教育改善委員学生6人の任命、ティーチング・ポートフォリオの導入、中長期計画WG9人の任命、教職員の異動について挨拶とともに行った。</p> <p>第 1 部 「授業改善に向けて ~前期授業評価アンケート結果の分析と検討~」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任命された学生代表が、7つの各テーブルに1名ずつ入った。 ・教育学部長、国際教養学部長より、別添資料に基づいて学生による授業評価及び点検シートによる教員の授業改善について、説明があった。 ・グループ討論 (授業に新しい考えと、良くない点<改善すべき点>) <p>(教育学部長 説明)</p> <p>平成 28 年度の「学生による授業評価及び授業点検シートによる教員の授業改善」報告書をもとに、取組について説明があった。</p> <p>学生による授業評価結果の活用が強く求められており、学生による授業評価アンケートについて、詳細な検討を加え、教員相互の授業参観結果を踏まえ、教育学部の教育方針の更なる改善を目指している。</p> <p>アンケート中の授業改善につながる項目について、4段階評定で評価平均点を算出し、教員の授業における評価平均点 (GPA に相当) とした。その結果、平均は 3.48 (4 点満点) だった。</p> <p>学生による授業評価結果に影響を及ぼす因子として、①受講年度、②クラスサイズ、③学生の基礎学力、④学生の事前・事後学習、⑤講義方法 (アクティブラーニングなど) が良く知られており、①~④について詳細に検討した。その結果、①②⑤は大きな要因となっていないと判断され、③および④が大きな要因となっていると判断され、学生の基礎学力と授業外学習時間の確保については、今後も検討が必要である。</p> <p>3つのポリシーについて見直しを行ったが、なかでもディプロマポリシーの実質化 (卒業時に素養を身につけているか) が今後大切である。だから、教育の質保証へ向けた、組織的なFD活動を推進する必要があると考えている。</p> <p>(国際教養学部長 説明)</p> <p>今年、前期終わりに学生による教員評価と科目評価を行った。結果平均が、教員評価が 4.48、科目評価が 4.38 であり、学生満足度が高いレベルにある。これは、教員が教室内外で献身的な作業を行い、積極的な学習を行うクラスの準備をした結果である。2.0~2.9 評価のある科目で、</p>	

同じ教員・内容の3クラスで1クラスだけ評価が低く、学生のコメントを確認すると、内容が難しすぎるという要因が多く、原因が教員によるものではないことがわかった。

教員自身による自己点検も行い、29シートが提出された。多くは、学生が指摘した点を把握し改善点を指摘していた。

国際教養学部の強みの一つは、小規模クラス制で、2018年春は平均19.5人でした。この数は、一部で増えたが、後期にはこの数字を減らす対策が講じられている。

成績分布の多くは正規分布に近いので、教員が真剣に評価を行っていることを示している。

初年度学生の初日にのみTOEICテストが実施されたので、言語学習効果を視覚化することは難しいが、図2にGPAによるTOEICスコアの分布を示している。ただ、現時点では決定係数が0.2程であり、高いTOEICスコアが高いGPAとは言えない。

成績の分析は、今後セメスターごとのGPA分析を検討していくかもしれない。

(グループ討論)

授業について、新しい案と改善すべき点について、各テーブルで意見交換し発表を行った。

<意見例>

- ・教員を目指すことに心が折れた学生の相談が必要である。
- ・3年生と4年生の合同クラスの授業は、実習や就職活動などで欠席が多く進みが遅い。
- ・両学部でアクティブラーニングの研修をする。
- ・心理学と経済学をコラボするような授業
- ・英語について1～2年はベーシック、3～4年は職場で使える内容をする。
- ・教育学部は3～4年でも英語をして欲しい。→後輩の1～2年に教える形がある。
- ・宿題量について、各学生については把握出来ていないので情報をシェアすべきではないか。
- ・国際教養学部の進級要件であるTOEIC500点は留年に関わるので、必要であれば現在行っている希望者向け対策でなく、全員が受講する形にして手厚い対策が必要ではないか。

第2部 「アセスメントポリシーと成績評価」について

第1部が予定時間を超過したため、英語通訳も交え20分程の説明になった。

昨年、3ポリシーを作成したが、その時にアセスメントポリシーもやっておくべきだった。他大学の多くが既にできている。

アセスメントポリシーを確立するには、カリキュラムポリシーで、どの教科でディプロマポリシーの何が身につくのかと、評価・改善を含む実施方針が可視化された形で公表されなければならない。

そのことについて、別紙資料にて詳しく説明があった。

第3部 「中長期計画策定に向けて ～M I Cのビジョンを語る～

第3部は、各学部で検討することとなった。